

家庭科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

| | 5年 | 6年 |
|---------------|---|--|
| 知識及び技能 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活が、身近な人々との関わりで成り立っていることや、互いに協力し助け合っていく必要があることに気付き始めています。 ○食材や目的に応じた調理の仕方、様々な縫い方など、基礎的な技能を習得する学習では、生活体験の違いにより個人差が多く見られます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活に必要な知識を習得し、家族の為に自分のできることを考え、実践する姿が見られます。 ○食材や目的に応じた調理の仕方、様々な縫い方など、基礎的な技能を習得する学習では、生活体験の違いに個人差が見られます。 |
| 思考力, 判断力, 表現力 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭での仕事や手伝い、できる料理などの面で、生活に関わろうとする姿勢が見られます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○住まいの快適な環境作り、季節にあった着衣、栄養のバランスを考えた食事など、習得した家庭生活についての知識や技能を活かして、生活を見直したり改善したりしています。 |
| 学びに向かう力, 人間性 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分や家族の生活に関心を持ち、皆が快適に過ごせるように整理整頓をしたり、裁縫などの実践的・体験的活動を積極的に行ったりしています。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分や家族の生活に関心をもつことができます。 ○実践的・体験的活動を積極的に行っています。 |

2 課題と改善策、検証方法

| | 5年 | 6年 |
|------|---|---|
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○裁縫の玉結び・玉止め・返し縫いなどについて、個人差があります。 ○コロナ禍によって実技の習得不足があります。 | <ul style="list-style-type: none"> ○裁縫やミシンの使い方等の技能について、個人差が大きいです。 ○コロナ禍によって実技の習得不足があります。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携を取り、学習したことを活かせる場面をつくります。 ○教師が手本を見せたり、視覚的な教材を用意したりします。 ○夏休みに家庭で調理の実習を実施できるようにし、学習したことを確実に身に付けたり、できることを増やしたりします。また、家庭で経験したことをもとに、さらに授業の中で生かせるようにしていきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携を取り、学習したことを活かせる場面をつくります。 ○ミシンを使った学習活動の場面を設け、技能の定着を図ります。 ○進みの早い児童や裁縫やミシンの使い方に慣れている児童と他の児童が学び合う場をつくります。 |
| 検証方法 | <ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの宿題のクッキングカードや授業の中での振り返りをもとに、実技が習得できているか確認します。 | <ul style="list-style-type: none"> ○完成した児童の作品や学習の振り返りをもとに、実技が習得できているか確認します。 |

